

RESEARCH REPORT

A survey about making martial arts compulsory at
junior high schools in Japan

中学校における武道必修化に関するアンケート調査 調査報告書



Interdisciplinary Research Center for
Lifelong Sport and Physical Activity

National Institute of Fitness and Sports

鹿屋体育大学

生涯スポーツ実践センター

2010

はじめに

日本の伝統文化の一つとして位置づけられる武道が、2012年度から中学校の体育において必修化される。学習指導要領では、武道学習を通しての伝統文化の教育、継承が大きな目的として位置づけられている。しかしながら、日本における武道実施者は減少傾向にある。中学生、高校生の運動部加入状況等からも若者の武道離れと、現代スポーツへの関心の高さが窺える。一方、日本の伝統としての武道が海外へ伝播し普及していく中で、柔道でのカラー柔道着やポイント制の導入などに見られる、いわゆる武道のスポーツ化を危惧する声も聞かれる。国際的な普及の中で、多様な文化や価値観における武道の伝統性との葛藤が生じているのも事実である。

このように武道の国際化が進む中で必修化される中学校で、どのように日本の伝統文化を生徒たちに伝えていくのか、文部科学省が「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校」を公募するなど、その方策が模索されている。

本調査報告書は、中学校での武道必修化を間近に控え全国の中学校の対応状況を明らかにするとともに、必修化に向けての課題を明らかにすることを目的に実施した。調査にあたっては、多くの中学校の先生方にご理解とご協力をいただき、必修化に向けて準備を進める現場の様子や課題を明らかにすることができた。特に、自由記述に記された現場の先生方の声は、必修化に向けての不安や期待が込められている。

本調査にご理解、ご協力くださった多くの先生方に感謝を申し上げますとともに、内容について忌憚のないご意見をいただければ幸いである。

平成 22 年 3 月

研究代表者 北村尚浩
(生涯スポーツ実践センター准教授)

中学校における武道必修化に関するアンケート調査 調査報告書

目 次

| | |
|--------------------------------|--------|
| 調査の概要 | - 1 - |
| 1 武道種目の実施状況 | - 2 - |
| 1-1 実施率, 実施種目, 実施場所, 部活動 | - 2 - |
| 1-2 実施にあたっての諸条件 | - 3 - |
| 2 武道の必修化に向けて | - 4 - |
| 2-1 期待される学習効果 | - 4 - |
| 2-2 必修化に向けて必要な条件 | - 5 - |
| 2-3 現場の声 | - 6 - |
| 3 まとめ | - 16 - |
| 付録・調査用紙 | - 17 - |

中学校における武道必修化に関するアンケート調査

調査の概要

1. 研究組織(所属・専門分野)

代表者 北村 尚浩 (生涯スポーツ実践センター・准教授・スポーツ社会学)
川西 正志 (生涯スポーツ実践センター・教授・生涯スポーツ学)
濱田 初幸 (伝統武道・スポーツ文化系・准教授・柔道論)
前阪 茂樹 (伝統武道・スポーツ文化系・准教授・剣道論)

2. 調査目的

本調査は平成 24 年度より施行される新学習指導要領に基づいて必修化される武道種目について、全国の公立中学校の対応状況を明らかにするとともに、武道教育のための環境を整備していく上での基礎資料を得ることを目的としている。

3. 調査内容

- 1) 武道種目の実施による期待される学習効果への期待 (22 項目)
- 2) 武道必修化に向けて整備が必要と思われる条件 (13 項目)
- 3) 武道種目の実施状況
実施種目と学年, 活動施設, 部活動, 実施にあたっての周辺状況 (14 項目)
- 4) 学校の属性
生徒数, 教員数, 保健体育担当教員数, 所在地 (市区部, 町村部), 中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校の指定の有無
- 5) 回答者の属性
性別, 年齢, 職名, 担当授業科目, 武道担当の有無, 武道種目の段位, スポーツを行う際の達成目標 (12 項目)

4. 調査対象

全国の公立中学校 (分校を除く) から 1,000 校をコンピュータによって無作為に抽出した。

5. 調査時期

平成 21 年 12 月～平成 22 年 2 月

6. 調査方法

所定の質問紙による配票調査 (郵送法)

7. 回収結果

455 校 (回収率 45.5%)

※ 本調査は、平成 21 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 「武道のグローバル化と中学校における武道教育の在り方：柔道か JUDO か」の一部である。

※ ※本調査は、平成 21 年 11 月 26 日開催の「鹿屋体育大学倫理審査小委員会」の承認を受けて実施した。

1 武道種目の実施状況

1-1 実施率, 実施種目, 実施場所, 部活動

今回のサンプル 455 校のうち体育の授業で武道種目を実施しているのは 386 校 (84.8%) で, 69 校 (15.2%) では選択としても武道を実施していないことが明らかになった (表 1).

実施している種目としては柔道が最も多く 282 校 (67.3%) で実施されており, 剣道は 110 校 (26.3%) にとどまった (図 1). 必修化に向けて必要な条件として用具や教材の整備を挙げる声が多かった (p.5) ことから, 比較的負担が軽い種目として柔道を行う学校が多いと推察される.

武道種目を実際に行っている場所としては図 2 に示すように学校の武道場 (195 校, 50.5%) が最も多く半数を占め, 次いで学校の体育館 (148 校,

38.3%) で, ほぼ 9 割が学校の施設で行っていると回答した. 地域の体育館や武道場を利用しているのはわずか 3%あまりであった. ただ, 教室で行っているという回答も 10 校 (2.6%) あり, 安全確保と効率的な授業実施の観点からも早急に改善されるべきである.

武道種目の部活動については, 剣道部を有する学校が 227 校 (50.1%) と半数に達したのに対して, 柔道部を有する学校は 143 校 (31.6%) にとどまり, 授業での実施状況と矛盾する結果であった (表 2).

表 1. 武道の実施率

| | n | % |
|-----|-----|------|
| 実施 | 386 | 84.8 |
| 非実施 | 69 | 15.2 |

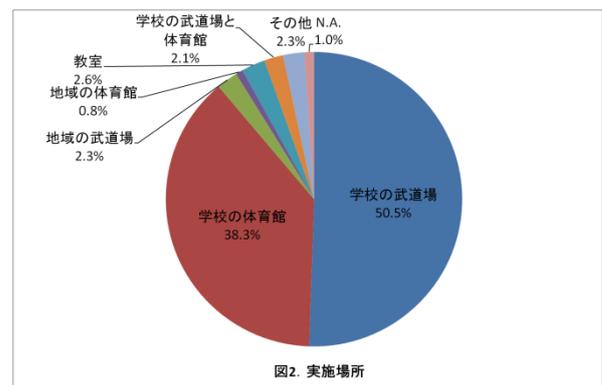
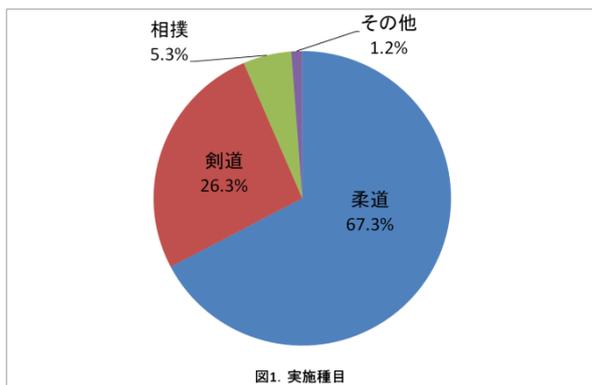


表. 部活動

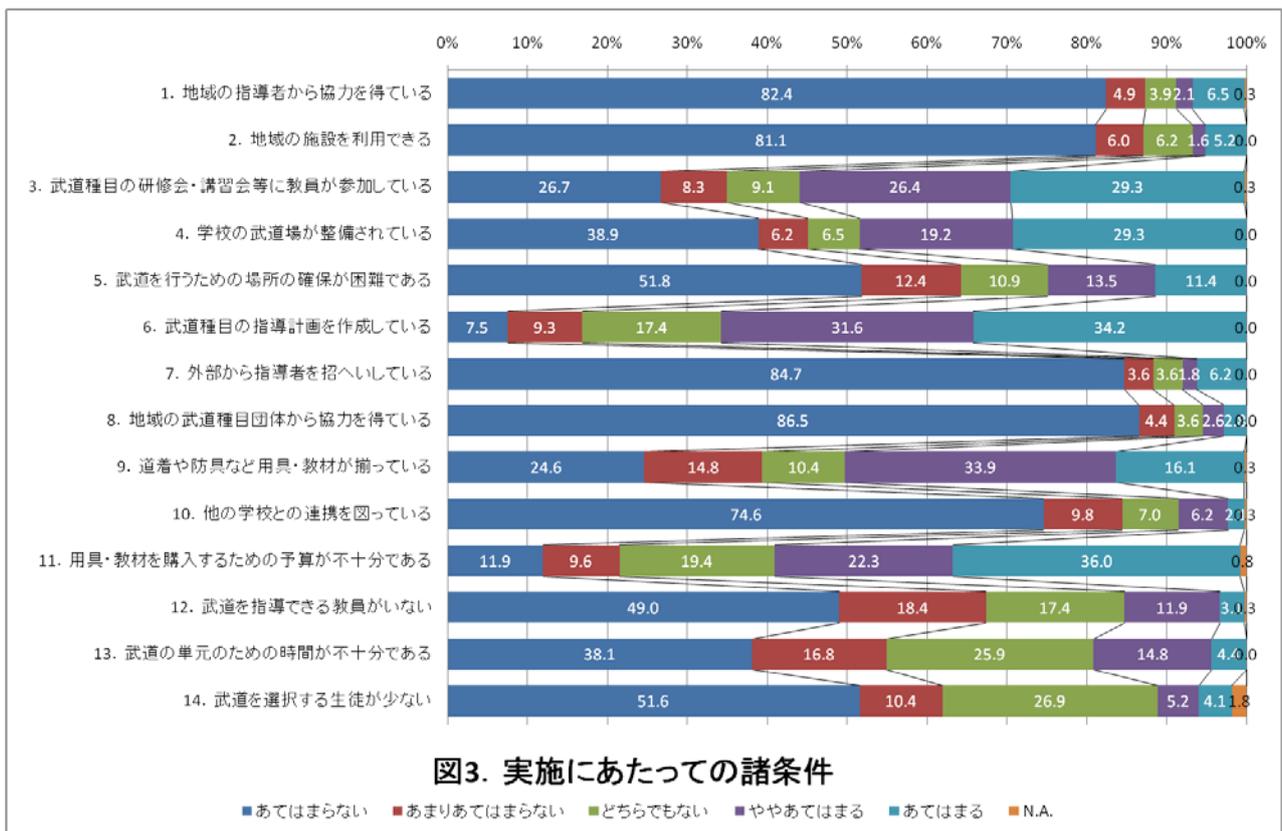
| | あり | | なし | |
|-------|-----|------|-----|------|
| | n | % | n | % |
| 柔道部 | 143 | 31.6 | 310 | 68.4 |
| 剣道部 | 227 | 50.1 | 226 | 49.9 |
| 相撲部 | 14 | 3.1 | 439 | 96.9 |
| 弓道部 | 11 | 2.4 | 442 | 97.6 |
| 空手部 | 1 | 0.2 | 452 | 99.8 |
| なぎなた部 | 1 | 0.2 | 452 | 99.8 |
| その他 | 1 | 0.2 | 452 | 99.8 |

1-2 実施にあたっての諸条件

体育の授業で武道種目を実施している学校に、さまざまな条件について尋ねた（図3）。「武道種目の指導計画を作成している」（ややあてはまる：31.6%、あてはまる：34.3%）、「武道種目の研修会・講習会に教員が参加している」（ややあてはまる：26.4%、あてはまる：29.3%）のようにソフト面の充実が図られるよう取り組んでいるところが半数から6割に上っている。また、「学校の武道場が整備されている」（ややあてはまる：19.2%、あてはまる：29.3%）、「道着や防具など用具・教材が揃っている」（ややあてはまる：33.9%、あてはまる：16.1%）というように半数近くでハード面も整備されている状況がわ

かる。その一方で、「用具・教材を購入するための予算が不十分である」（ややあてはまる：22.3%、あてはまる：36.0%）と限られた予算の中で取り組んでいる様子も浮き彫りになった。

さらに、「地域の指導者から協力を得ている」（あまりあてはまらない：4.9%、あてはまらない：82.4%）「地域の武道種目団体から協力を得ている」（あまりあてはまらない：4.4%、あてはまらない：86.5%）に見られるように、武道種目の実施にあたっては地域の団体や指導者との連携は、ほとんど図られていないことも明らかになった。

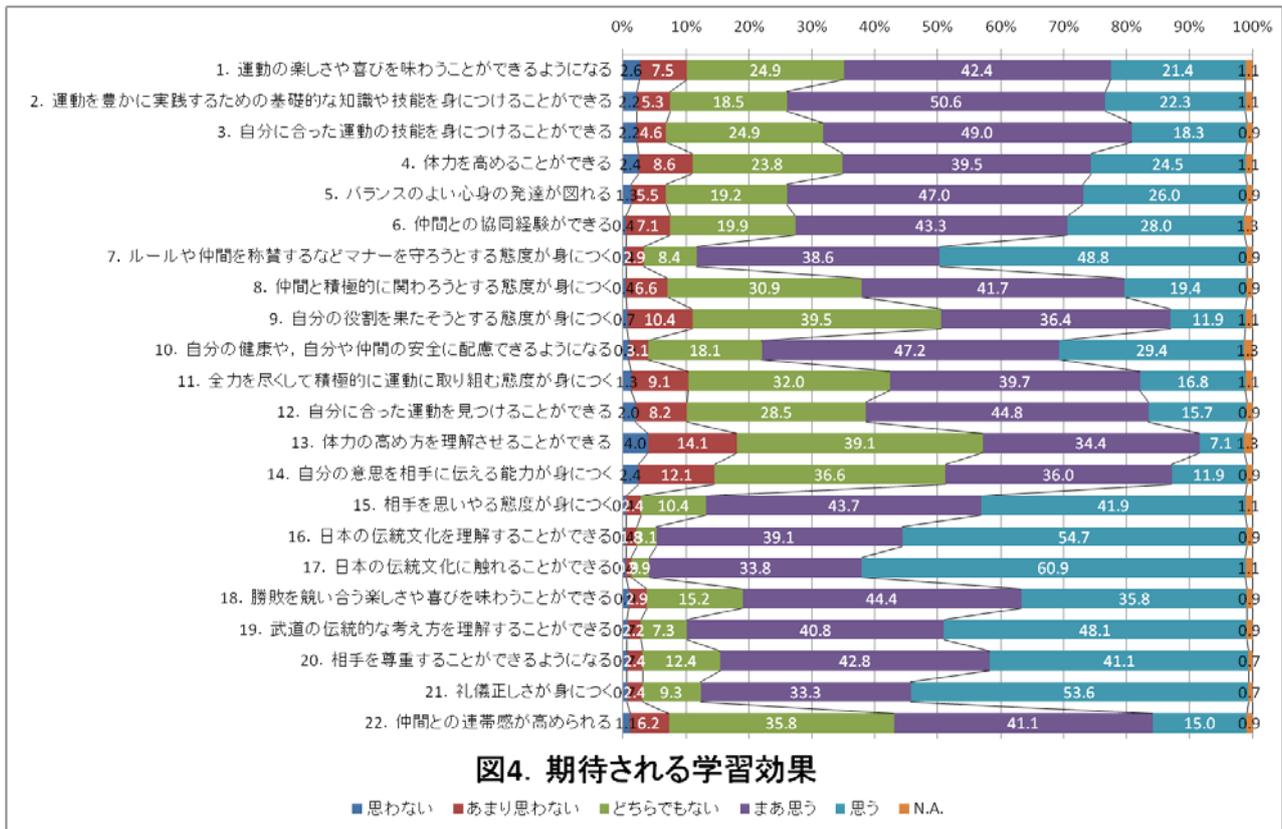


2 武道の必修化に向けて

2-1 期待される学習効果

武道が必修化されることによって期待される学習効果について尋ねた結果が図4である。「日本の伝統文化に触れることができる」(まあ思う：33.8%，思う：60.9%)「日本の伝統文化を理解することができる」(まあ思う：39.1%，思う：54.7%)「武道の伝統的な考え方を理解することができる」(まあ思う：40.8%，思う：48.1%)など、武道の伝統的側面を通してわが国固有の文化を学習することへの期

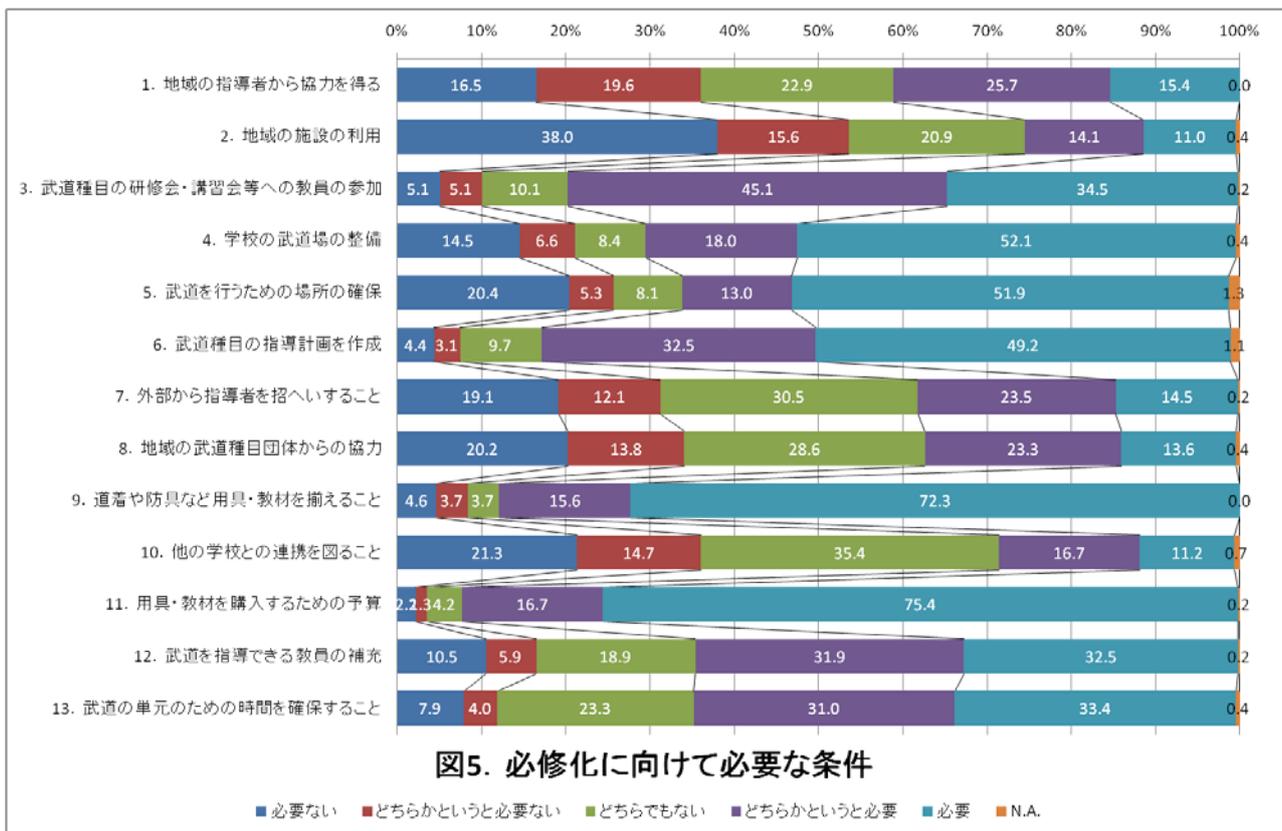
待が大きい様子が窺える。同時に、「礼儀正しさが身につく」(まあ思う：33.3%，思う：53.6%)「相手を思いやる態度が身につく」(まあ思う：43.7%，思う：41.9%)「ルールや仲間を称賛するなどマナーを守ろうとする態度が身につく」(まあ思う：38.6%，思う：48.8%)といった、礼節を重んじる態度の習得についても期待されていることがわかる。



2-2 必修化に向けて必要な条件

武道の必修化に向けて必要な条件としては、「用具・教材を購入するための予算」(必要：75.4%，どちらかという必要：16.7%)「道着や防具など用具・教材を揃えること」(必要：72.3%，どちらかという必要：15.6%)「武道種目の指導計画を作成」(必要：49.2%，どちらかという必要：32.5%)「武道種目の研修会・講習会等への教員の参加」(必要：34.5%，どちらかという必要：45.1%)「学校の武道場の整備」(必要：52.1%，どちらかという必要：18.0%)「武道を行うための場所の確保」(必要：51.9%，どちらかという必要：13.0%)といった、ソフト・ハードの両面にわたる環境整備が求められ

ていることがわかる。その一方で、「地域の施設の利用」(必要ない：38.0%，どちらかという必要ない：15.6%)「地域の指導者から協力を得る」(必要ない：16.5%，どちらかという必要ない：19.6%)「他の学校と連携を図ること」(必要ない：21.3%，どちらかという必要ない：14.7%)などの結果にみられるように、地域や他校との連携や協力によって必修化に対応しようとする姿勢は、弱い様子が窺える。地域の施設や指導者を、学校施設の不備を補うことや教員の指導力を向上するために活用する方策ももっと検討されてもいいのではないだろうか。



2-3 現場の声

最後に、武道の必修化についての意見を自由に記述するよう求めたところ、194名がそれぞれの立場から意見を述べた。肯定的意見、否定的意見、行政

に対する要望、武道教育現場の現状、調査に対する意見など様々であるが、基本的に調査票に記入されたままの記述を以下に示す。

- 良いことですが条件整備が大切です (24歳, 男性)
- 離島の属島, しかも無医島, 体育の教師がおらず, 免外で授業をしなければならない本校の実状として, 非常にづらい。施設などのハード面もさることながら, 指導する方法さえ分からない。何より, 安全面(ケガ等)が心配であり, 必修化になった時には, 私自身は体育は引き受けられない。地域にも指導者はいない。 (44歳, 男性)
- 来年度は実施の予定なので現時点では, 答えにくい質問がありました。 (50歳, 女性)
- 来年, 私自身が講師として剣道授業を専門外の先生の指導方法の講習会を実施することになっています。近隣校の先生方と指導方法について研修を行っています。 (53歳, 男性)
- 用具等の整備を早急に進めなければならない。 (34歳, 男性)
- 用具教材の予算が少なく全員(体育科でも)きちんと指導できないのが嫌である。 (55歳, 女性)
- 用具の購入の為の予算が確実に確保されること, 体育と別に武道が時間割に位置づけられること, このことに加えて, 保健体育教員ではなく, 武道教員が必要になる体制ができると, 本当に武道を必修化したねらいが達成されるのでは…。 (43歳, 男性)
- 用具, 教材がそろわず, 十分な指導・学習ができていない。予算をつけてほしい。 (32歳, 男性)
- 用具, 場所等課題はたくさん現場にはありますね。 (46歳, 男性)
- 問2の2)の1~11などは武道以外でも身につけさせていかなければならない。授業で仕組んでいくものだと思います。対人競技の特性に触れさせて世界に普及した柔道に親しむきっかけにはなると思います, (42歳, 男性)
- 本年度, 武道の授業を本校で実施しておりません。前任校での授業の経験をもとに記入させていただいた項目もあります。今後, 武道は柔道を実施する計画です。 (47歳, 男性)
- 本校は今までも柔道を計画的に位置づけ, 行っている。しかし, 剣道もやっていきたいのだが, 防具が十分でなく, やれていないのが現状である。 (41歳, 男性)
- 本校は10年前より男女とも武道必修を行っており, 1月12日~1月20日まで朝7時より寒稽古も実施しております。 (46歳, 男性)
- 本校においては武道は視聴覚教材, レクリエーション種目(選択の一部)でしか行なえていません(相撲)。必修化が決定した時点で, 柔道を選択し予算要望をしても却下されてしまい, 市内校その他や連絡をとり, 完全必修化に備えています。年間の予算を考えると, お金のかかる用具を買うのは難しいです…。なんとかしなくてはなんですが…。 (38歳, 男性)
- 本校においてはまず場の確保が第一と考えます。 (54歳, 男性)
- 本校では武道はすでにカリキュラムに入っています。柔道を実施しています。女子は試みとして, 1, 2年生で実施することになっています。 (52歳, 男性)
- 本校では剣道を行っており, 防具も場も十分であると考えている。必修化に対応できていると思われる。 (30歳, 男性)
- 本格的な武道を行うには, 施設の充実や用具が欠かせません。その為にかかる費用も簡単には済まないのので, 長期計画で少しずつ用具等をそろえていくしかないのかなと思っています。 (25歳, 女性)

- 本校では6年前から研究しており、武道必修化については1年で柔道、2年で相撲または剣道の1つを選択し、3年で柔道、相撲、剣道、ダンスから1種目を選択します。ダンスも1年でリズムダンス、2年でホールルームダンス（社交ダンス）と武道とダンスの充実をずっと研究してきている学校です。相撲については昨年度教育委員会全県大会で発表をしています。 (40歳, 男性)
- 防具等をそろえる予算が本当に足りません。 (41歳, 男性)
- 防具等が不足及び老朽化しているので揃えてほしい（全員分）。 (43歳, 男性)
- 防具や用具を揃えるための予算が、まず必要です。それと指導者の養成です。 (50歳, 男性)
- 防具や施設の不足や不備に大きく不安を感じます。また、女子にも武道ということで、道具の共用でいいのか？疑問。（汗をかくことで…） (44歳, 男性)
- 防具について、管理維持（男女使用、共別）等での配慮、竹刀の個人持ち管理についての配慮。 (46歳, 男性)
- 防具、竹刀、柔道着等の購入費用の財政的措置をお願いします。 (59歳, 男性)
- 補助教材としてDVDなどの資料活用のための予算措置が望ましい。 (50歳, 男性)
- 武道必修化の理由をしっかりと理解した上でその理念に乗った指導を行うことが重要。ただ、技の形だけを教えるのであればやらないほうが安全だと思います。 (30歳, 男性)
- 武道場の整備、用具・教材の整備が不可欠だと思います。指導法の研修会も必要だと思います。 (56歳, 男性)
- 武道館が本校にはありません。切実な悩みです。要望を繰り返しています。 (37歳, 男性)
- 武道を通した人間形成は必要であると感じる。痛みをお互いに感じ合うことで相手を大切にしたり、信頼関係が築かれやすい。ただ、量や環境の問題（金銭）が不足しているのが実状である。 (43歳, 男性)
- 武道を実施する上で、必要な道具と施設がきちんと整備されていないなか、指導要領だけが先走りしている。学校の実状に応じて進めていく必要がある。 (37歳, 男性)
- 武道を行うための予算がありません。 (25歳, 男性)
- 武道を行うことは、様々なメリットがあると感じています。 (38歳, 男性)
- 武道は子どもの健全育成には大切な種目だと考えています。しかし、自分自身に経験がなく、数回程度の講習会では、指導できる見通しが持てません。困っているのが現状です。 (40歳, 女性)
- 武道は、必修化すればいいというものではない。指導者がいないこと、簡単な講習を数回受けただけの教員が武道（特に柔道）を教えると、危ないこと、各学校の生徒の実態（本校）により、とても武道を行えるような子どもではないこと。必修化にするならば、例えば…1年生で剣・柔・相撲を数時間ずつ行い、2年生で（3年生も続けて）子ども自身がどれかを選択していく、などが必要である。選択するほうが子どもは喜んで参加できるのではないか。本校の子どもの特性を考えたとき、武道を必修で行うことは避けたい。 (25歳, 男性)
- 武道は、日本の伝統文化、考え方、礼儀等を学ぶことができ、中学生の時期に学習することは大変意義あることだと思います。 (44歳, 男性)
- 武道の履修時間が年間35時間にならず年間12～13時間程度になったために、用具、施設面の整備・準備も含めてむずかしくなってしまった。 (50歳, 男性)
- 武道の用具、教材をそろえることが困難であり、また武道場の確保もこんなである。それらを整備する予算も厳しい。 (34歳, 男性)
- 武道の必修化は大切なことです。中学校の授業でしっかりと指導していくことが、これからの人間形成に必要だと思います。 (57歳, 男性)

- 武道の必修化は賛成ですが、武道場の整備、用具・教材の購入等、予算の部分が気になります。安全上もお金をかけなくてはいけない部分もあり心配です。 (46歳, 男性)
- 武道の必修化は、悪くはないが道具や防具・施設面での課題が多くあり、予算的にも苦しいのが現状である。 (26歳, 男性)
- 武道の指導内容でポイント・コツを指導者がわかり、生徒に伝えたい。わかりやすい指導書が欲しいです。 (36歳, 男性)
- 武道の必修化により、保護者への負担が増えます。運動の楽しさや喜びはどの種目であっても味わえるし、仲間づくりや役割分担、体力向上についても同様に思います。武道が加わったにすぎないと思います。縄跳びであっても十分可能です。伝統文化に触れることはできますが、無 (53歳, 女性)
- 武道の必修化には賛成です。しかし、中学生の生活ぶり、資質をみると、他社と直接争う（勝敗を決める）ことに不安や抵抗感のある生徒が多いと感じます。しかし、実際に行ってみると礼儀や作法、他社への思いやりなどの意識は高められると理解しています。 (49歳, 男性)
- 武道の精神を系統的に教えることは、今の時代、特に重要であり必要なことである。日本の文化を継続していくためにも、武道を教えていく環境を整えていくことは急務であると思う。 (47歳, 男性)
- 武道＝武士の生き方としての道徳。武士がいくさをするのに必要な武術・剣術でなるならば、体育の授業には必要ない。必修化には反対である。 (52歳, 男性)
- 必要なことと思ひ、指導力も向上していかねばと強く思っています。 (33歳, 男性)
- 必要なことととても大事だが時間の確保や環境の整備が不十分。 (27歳, 男性)
- 必修化は良いと思うが、それに伴う研修や施設整備に予算が付いているわけではないので配慮がなさすぎると思う。 (31歳, 男性)
- 必修化の必要性を感じてないので、かたよったアンケート結果になってしまいます。 (37歳, 男性)
- 必修化の必要はないと思います。現在も行っていますが、他の種目と比べて専門性を問われる場面が多いと感じます。「さわり」程度で行うことしかできません。納得できるためには10～20時間程度は厳しいです。現行のままの方が良いと考えます。 (44歳, 男性)
- 必修化に伴い、今まで剣道、柔道の選択だったが、2種目では生徒数が多すぎて、教材・用具が不足する。また、場所の確保も問題となる（柔道選択が少ないから）。 (40歳, 女性)
- 必修化になる前に各校で履修させておくべき。 (42歳, 男性)
- 必修化にあたって、私自身武道が未経験なので、研修会や講習会に参加して勉強したいと考える。また、道具が不備なため貸し出しできるところがあったら利用したいし、指導できる外部講師がいればお願いしたいと思う。 (45歳, 女性)
- 必修化しなくても、各学校の実情に応じて、今までも実施してきた。各校の体育施設や教室配置、研修の充実を先行させるべきで「武道」を学校体育の中で特別に位置付ける必要は感じない。 (61歳, 男性)
- 必修と決定されなければ、実施しなかったかもしれないので、よいチャンスとしてとらえていきたい。教育効果はあると思うので。 (44歳, 男性)
- 反対ではありませんが、なぜ武道だけこんなという思いはあります。 (49歳, 男性)
- 日本古来の伝統文化を学ぶという意味では有意義である。また、対人の種目でもあるので、礼儀や相手を尊重する姿勢を育てるのに有益である。 (46歳, 男性)
- 日本の文化である武道をつたえることで、今の中学生にかけている礼儀等を指導することはすごく良いと思う。 (51歳, 男性)
- 日本の伝統文化を指導することは、大切だと思う。 (48歳, 男性)

- 日本の伝統文化や「礼に始まり礼に終わる」などの武道の精神を教える事は必要であると感じます。ただ道具や用具の確保など予算面を含めて、すぐに実施できない現状があります。 (40 歳, 男性)
- 日本の伝統文化でもある武道を全生徒に教えられるということはすばらしいと思う。しかし、用具や指導体制も確立など、解決すべき問題も多く、今後の取り組みが重要だと考える。 (36 歳, 男性)
- 日本の伝統文化である武道を必修化することは、大変意義があると思う。スポーツとしての楽しさの中にも、礼法や相手を思いやる「自他共栄」の精神など、人格系形成の上では、特に中学生の生徒には、必要だと感じている。 (38 歳, 男性)
- 日本の伝統、文化を継承していく上で必修の価値は大いにあると思う。 (42 歳, 女性)
- 日本の国技:武道が衰退していることは残念なことです。学校体育でのその楽しさを味わわせてやりたいと思っています。 (47 歳, 男性)
- 日本の古き良きを学習させるために武道を教える、という考えは正直言っておかしい。その前に英語の推進をやめ、国語の授業を重んじるべきである。半欧米化されている現代の子供に、半強制的に武道をやらせようとしたところで、武道の根本である“和の心”などが理解できるはずがない。 (28 歳, 男性)
- 日本で誕生したスポーツは必ず1つは身につけなければいけないと思う。 (51 歳, 男性)
- 道着や防具を個人で準備するのか学校で準備するのか。いずれにしても予算がかさむことは確実である。また武道場のない学校は、場所の確保がたいへんである。 (60 歳, 男性)
- 道着や施設の補償が必要。 (40 歳, 男性)
- 道場の確保、用具の確保ができない時も多いと思います。狭い道場の場合安全面も考慮する必要があるし十分な学習ができないこともあると思います。 (43 歳, 男性)
- 当校は少人数の学校で、以前から地域のクラブの方がボランティアで指導に来てくださっていて助かっています。武道は楽しいスポーツですが、予算や安全面を考慮すると難しい部分もあり、何かあってからが心配です。 (41 歳, 男性)
- 伝統的な文化を伝える上ではとても大事だと考えます。ただ、武道場確保の問題が大きく、ケガ等も心配されることが不安です。男女混合での授業も進度のことを考えると難しいと思います。 (29 歳, 男性)
- 中学校ではほとんどの学校で道場が完備されていません。体育館で畳を敷いてから授業を始めるのでとてもやりにくい。 (50 歳, 男性)
- 竹刀や柔道着など、個人の負担を強いることが今後ますます厳しくなってくる。必修にするために(義務教育として)何らかの措置をとり、家庭への負担を少なくしてほしい。 (42 歳, 男性)
- 地域や地域指導者との連携を進めていくことは大切である。又、道具を準備することはとても難しく特に剣道の道具はお金がかかるので課題である。良い道具で伝統的な動きや所作など剣道や武道を指導できればと思っている。課題はたくさんある。本校は大変恵まれた環境にある。 (34 歳, 男性)
- 男子については良いのですが、女子だけ男女共修はむずかしい。 (54 歳, 男性)
- 男子と女子生徒や、1年ですと男子1名と私が必ず組むことになり、思春期の男女には少し負担なように思われます。たたみの部屋も無く10畳ほどの畳を毎時間体育館で出し入れするのがきつい為、2時間ほどしか実施せず、目標の達成まではいけません。 (35 歳, 女性)
- 大変良いことだと思います。今の生徒には必要な事かと思えます。 (51 歳, 男性)
- 大変有効なことだと思うが、施設・用具面などの費用がかかりすぎる。 (42 歳, 男性)
- 大変ですが、頑張らなければならないと思います。 (45 歳, 男性)

- 大賛成です。 (39 歳, 男性)
- 体力を高めたり, 運動の喜びを味わうことについては, 指導方法の工夫によりどのような種目でも高めることができると思うが武道を通して相手を尊重し礼儀を身につける経験はとても大切であると思います。 (35 歳, 男性)
- 多人数による場所の確保ができない。剣道は体育館でできるが, 柔道は無理。 (38 歳, 男性)
- 他の単元の時間確保が困難になる。現在でも足りないのにどうしてこのような必修制になるのか疑問である。また, 本校では実態・実状からして剣道を選択せざるをえないと考えていますが, 用具の準備(特に小手)が予算的に可能なのが, 非常に不安であります。 (49 歳, 男性)
- 相手への尊重の心を養ったり, 日本の伝統文化を継承することにもつながる。また体力の向上や相手, 仲間との協調性を養う面でも有効な面が多いと考えている。 (42 歳, 男性)
- 早急な条件整備が必要だと感じています。 (31 歳, 男性)
- 全体の時数でバランスを考えると, ダンスと武道合わせて 10 時間程度が実際に行うことができ, 5 時間程度で技の習得までいくのはなかなか難しい部分もある。 (35 歳, 女性)
- 全国的に見てどうかわかりませんが, この必修化によって武道をやるといふより女子も武道をやるといった感じでした。男女剣道をやっていた学校の経験もあるので防具は着けてやらせたいと思う。道具をまずそろえることが剣道も柔道も大切であると思う。精神面や伝統文化は座学でも学べるが, 技能とツインでより深みがでてくる。中学校の現場として今まできちんと武道を教えてこられた先生方は, 教える不安より防具等がないことで今までより内容が乏しくなる感があると思う。 (43 歳, 男性)
- 全学年実施することで, 生活の中にも生きた礼儀を実践することができている気がします。人間として日本人としての生き方を考えさせられる授業でした。これからもぜひ続けたいです。 (31 歳, 女性)
- 全ての生徒に多くの経験をさせることは良いことだと思います。 (55 歳, 男性)
- 設備, 時間が不十分。あと, 国で決めたことだからやっているが, それをやりたいという人がいなくなっている現状に不満がある。その場しのぎでなく, しっかり現場を見てほしいと思う。 (34 歳, 男性)
- 生徒の運動量からみると, あまり積極的に実施したいとは思わないのが事実。その他では意味があるので, 実施する価値がある。 (33 歳, 男性)
- 人手や予算がないのに, なぜ無理をするのだろう。 (47 歳, 男性)
- 新学習指導要領では, 武道が必修化になるが, 実態は武道に接する機会が減少することもある。 (47 歳, 男性)
- 畳の部屋での生活体験が乏しくなっている昨今, 「伝統的文化」を伝えられる意味として武道の授業は良いと思います。 (45 歳, 男性)
- 畳が古くて痛い, ソフトな畳が欲しい。畳を敷くのに時間がかかりすぎる。 (58 歳, 男性)
- 場所の確保, 道具や防具等の用意するための予算確保などまだまだ厳しい課題が山積みです。23 年度実施に不安を感じます。整備がされていない状況では, 学ぶ生徒がかわいそうですし効果も期待できません。 (25 歳, 男性)
- 場所と道具の確保がどの学校も非常に困難であると思います。 (35 歳, 男性)
- 場所がないので無理。 (50 歳, 男性)
- 場や道具の確保がないまま必修化だと言われるのに不満がつのがやるしかないと思っている。 (37 歳, 男性)
- 小学生の時に身体が接触するような遊び体験が少ないため中学生での武道体験は相手を思いやる気持ちの涵養に重要な役割を果たすと思います。 (53 歳, 男性)

- 小学校で武道がないので，中学校で初めて実施する単元．オリエンテーションの時間を長くとり，武道の授業についての意識を高めることに時間がかかる。 (56 歳, 男性)
- 女性教員では，難しいところもあるので，研修の充実化や指導できる教員の配置が必要だと思う．地域の団体や外部指導者は，授業時数との兼ね合いで簡単にはお願いできない。 (28 歳, 女性)
- 「戦争ができる国作り」への準備かと考えてしまう。 (41 歳, 男性)
- 女子全員に対して武道を必修化（授業）することは困難を感じている．柔道衣を購入することができない家庭もあり，（就学援助を受けられない家庭）武道以外で日本の伝統文化を感じ取る経験でよいと考えています。 (47 歳, 男性)
- 女子も武道を履修するという事は，場所，用具をそろえ，保管する棚等も必要になってくる．予算がない状況で，実施は困難である。 (45 歳, 男性)
- 女子への導入は，やってみないと分からない．体重差，能力差がある中での安全の確保をどうするか，大怪我の心配。 (50 歳, 男性)
- 女子の指導をどのように行ったら良いのか悩んでいる．柔道着が人数分ないので困っている。 (44 歳, 男性)
- 女子の指導が大変だと思う。 (59 歳, 男性)
- 女子が始めるにあたり保護者からの心配の声があがっている．柔道着を個人で購入することへの不満もある。 (41 歳, 男性)
- 出来る範囲でやっているので特に必修の必要はない。 (60 歳, 男性)
- 柔道着がない人は購入しなければならないので家計に負担がかかる．また，せっかく購入したのだから3年間使うようにしようと考えています。 (54 歳, 男性)
- 柔道は以前から行っている（男）．女子の武道の指導は大変厳しいと思っている。 (39 歳, 男性)
- 柔道については，予算的なものをあまり必要としないが，剣道においては防具の購入など困難であり，実施したくてもできない状況である。 (41 歳, 男性)
- 柔道にしても剣道にしても用具の準備がたいへんであること．（柔道着，剣道用具代がたくさんかかる．柔道畳にしてもである．） (51 歳, 男性)
- 柔道が専門のわたしとしては大変ありがたいことである。 (53 歳, 男性)
- 柔道・剣道は，現在まで指導の経験はあるが，自校で行っている杖道は，経験が少ないので，とまどいながら指導しています。 (49 歳, 男性)
- 柔・剣道，相撲の授業で，各学年どの程度の段階まで，到達するようにするのか，目標をしっかりとすることだと思います．地域の方に協力して頂く時に，入念な計画の話し合いが必要だと思います．柔道は，とても楽しく，仲間と関われるものだと思います。 (29 歳, 男性)
- 宗教上の理由で武道ができない生徒をどうするか．そしてその生徒の評価をどうするか。 (40 歳, 男性)
- 実際に授業（指導）ができるのか不安です。 (34 歳, 女性)
- 自分自身が，一度も経験していない武道を必修になるからといって教えることに不安を感じる．何度か講習は受けているものの，授業を組み立て，指導していくには不十分さを感じる。 (38 歳, 女性)
- 私は剣道部の顧問です．武道の必修化で，剣道をやる状態になるのは大変なコストがかかります．柔道をやるならマットでも出来ます．できれば剣道ができない理由を各校に聞くとおもしろい回答が得られるのではないのでしょうか？柔道か JUDO かとは主旨がかわってしましますが… (30 歳, 男性)

- 私の勤務している地域（静岡県東部）では、ほとんどの中学校で武道（柔道）は行っているのですが、今さら必修化といってもピンとこない。 (55 歳, 男性)
- 施設面を整備し、学校内に武道場を整備してほしい。準備、片付けに多大な時間がかかる（体育館で実施している）。進み具合にもよるが、例えば「1 時間目、3 年武道。2 時間目、2 年球技。3 時間目、3 年武道とか」。*準備、片付けで（畳の上げ下げ）で 15 分ロス。移動、着替えで 10 分ロス。内容が深まらない。 (42 歳, 男性)
- 施設を整備して実施してほしい。 (56 歳, 男性)
- 施設も用具も無い中でスタートするのは良くない。必修にすることは問題ないと思うが、その前にすべての学校に武道場を作るべき。 (49 歳, 男性)
- 施設の充実と指導者の数の確保を早急に進めないと武道を進めていく上で困難だと思いますが。 (52 歳, 男性)
- 施設と用具の十分な予算措置が図られるべき。 (44 歳, 男性)
- 施設が整備されていない。 (28 歳, 男性)
- 施設・用具の整備が極めて困難である。 (47 歳, 男性)
- 施設・用具が整っていない。また、指導する場合、安全面から TT にしてほしい。 (51 歳, 男性)
- 施設・設備が不十分の中で必修化になっても安全にできるとは思えないし、十分な指導ができないと思う。 (33 歳, 女性)
- 施設、用具の不備で武道（柔道・剣道）の実施がむずかしい学校が多い。柔道実施の場合、柔道者については個人負担とならざるを得ない状況である。剣道実施の場合、竹刀は個人負担となる。学校にたたみや剣道防具が人数分そろっている状況でないと実施はむずかしい状況である。 (52 歳, 男性)
- 施設、用具の確保 (45 歳, 男性)
- 施設、設備、用具等がどうなるのか全く決まっていない状況です。必修化になるなら全ての学校で実施できるように整えて欲しいと思います。 (44 歳, 男性)
- 指導者講習会等に教員が積極的に参加し、全ての教員が指導できるようにすべき。 (29 歳, 男性)
- 指導者への研修をお願いしたい。 (35 歳, 女性)
- 指導者の確保、活動場所の確保、用具の確保が重要だと考えます。また、安全面で最大の配慮が必要だと思います。 (38 歳, 男性)
- 指導者がいない、施設設備の不備、の中では無理です。何事もやれただけでは、どうにもなりません。 (51 歳, 男性)
- 指導者、施設、用具の充実が大切 (47 歳, 男性)
- 今年度から女子の剣道を実施して、思ったより上達が早く素直に取り組んでいた。防具をつけることに対しても抵抗がなく、三時間ほどで自分ひとりでつける、しまうことができていた。剣道で大切にしたい事、礼儀、相手を尊重する、大きな声を出すなどクリア出来ていたように思 (53 歳, 男性)
- 今後の年間計画をしっかりと見直していく必要がある。武道の必修化のみでなく新学習指導要領と本校の実態を合わせて作りなおしていきたい。 (42 歳, 男性)
- 今までの授業と、大きく変わることはないと考えている。いろいろな指導計画案があるとうれしい。 (45 歳, 男性)
- 今までの学校でも、必修でやっていた所が多かったのですが、特に違和感や心配に感じることはありません。 (39 歳, 男性)
- 今の子ども達、生徒達の教育に必要な単位だと思っている。 (51 歳, 男性)
- 今の子どもたちに、とても重要な、そして欠けていることを学ばせられると思います。粘り強い取り組みが必要だと思います。 (43 歳, 男性)

- 国際化の進む中，日本の国技ともいえる武道についての知識や体験があるということはとても大切であると思います。 (32 歳, 男性)
- 高校も必修にすべきだと思います。 (44 歳, 男性)
- 講習会等へは参加していますが，何となくとっつきにくく，授業を行うに当たって尻ごみをしています。地域の方や専門の方に協力していただけるのであれば協力していただきたいです。 (25 歳, 女性)
- 好ましい事と思う。 (53 歳, 男性)
- 公立校での必修化に伴い，各市町村の予算等によって生徒への影響が大きく違ってくると思います。今までもいろいろな場面で各市町村によっての個人への負担が違って (49 歳, 男性) いるのだから。
- 現場では困惑することがおおくある。用具，教材等の不足。 (50 歳, 男性)
- 現実的に見て剣道では防具が高価であり予算面で無理がある。柔道では柔道着は個人で所有で畳があれば何とかできるが，一回ごとに片付けなければならない点が大変である。 (56 歳, 男性)
- 現在は選択制のため 50 人くらいを TT で一度に指導することができるが，必修となると，集団（クラス）の構成など施設の大きさにあわせて再検討する必要がある。 (35 歳, 男性)
- 現在，柔道・ダンスの選択をしています。必修化に伴い，年間単元計画の立案を行わなければいけない時期になっています。柔道・ダンスをどのように位置付け単元展開をしていくか検討中です。 (32 歳, 男性)
- 見直すべき，先ず予算，施設，指導者が不足してる中で無理がある。 (51 歳, 男性)
- 県又は，市町村がどれだけ施設完備に予算を割り当てようとしているのか不安である。 (31 歳, 男性)
- 研修会や講習会があれば，積極的に参加したい。 (45 歳, 男性)
- 研修がないときめ細かい指導は難しい。 (34 歳, 男性)
- 剣道は今年から 2 年生に竹刀のみ行なうか，1 年生の柔道はジャージでマットで行なう予定。すき間があり，危険がある。現状では武道を行なえる予算などない。 (57 歳, 男性)
- 剣道の道具置き場など，また個人持ちでないので臭くなり，長年使用が難しい。素振りなど以前女子にやらせてみました。喜んでいました。 (59 歳, 女性)
- 金銭面での負担が大きい。道着や防具のつかいまわしには抵抗がある。個人種目（柔・剣・相など全てが）で相手との勝敗が大きい。本格的にはしようとは思わない。広く (40 歳, 男性) スポーツをする上で味わうのはいいことである。
- 教諭になってから，ずっと剣道を指導してきたので，今さら必修化といってもピンとこない。現在のように外部講師（道場を開いている先生）に指導していただけることは大変によいと思う。剣道の心や，細かい点の補足説明等はとてもありがたい。生徒も違った気持で受け入れ，取り組むことができているように思う。ただ配当時間が少ないので，各学年半分の授業時数があると有意義な剣道の時間になる。 (57 歳, 男性)
- 教材，用具の確認をしないと，男女全員に履修させることが難しい（単元としてしか使用しないので）。 (52 歳, 男性)
- 教員養成の課程を充実させる。特に大学では。 (45 歳, 女性)
- 教員の指導者講習会を義務づけるとよい。体育教員（武道経験者）の採用を増やす。 (48 歳, 男性)
- 教員の確保と防具等の確保がないままでは進めない。 (47 歳, 男性)
- 机上のものと現場の施設，用具，予算などかみ合わない部分が多く，深く追求することが難しい。 (44 歳, 男性)
- 環境（施設・用具・指導者）を整えることは先に考えてやってもらいたい。各学校まかせでは困難だと思います。 (59 歳, 男性)

- 基本的にはとてもよいことだと思います。しかし、限られた時間の指導の中でどこまで武道の良さを味あわせることができるか、指導者のレベルによって差が出ると思う。(41歳, 男性)
また、柔道は大変危険が伴うので、毎時間》とても不安を抱えながら行っている。
- 環境の整備が整えば、非常に大切なことではないかと思っております。(30歳, 男性)
- 学問の中の「協同経験」というととばを知らなかったので、調べてみます。(52歳, 女性)
- 学校や地域性等もあり、どの種目を行った方がよいか決めにくいし、道具をそろえたり、場所の確保等もむずかしいところがある。(45歳, 男性)
- 学校によって武道ができる設置が全くそろっていない状況があり、これで必修化されていくにあたって現場での工夫や生徒の安全面に考慮する。(36歳, 男性)
- 学校にある用具・教材によって、武道種目の内容が決まってくるのは、どうかなと思う。(48歳, 女性)
- 各学校に武道場が必要だと思います。生徒の安全面からも整備を整えることが大切だと思います。(37歳, 男性)
- 衛生面での問題点(皮膚病の感染など)が考えられます。女子の場合、護身術として扱ってはいけないうのでしょうか。(50歳, 女性)
- 安全面を考えても施設・用具等きちんとしたものがないと難しい種目です。剣道は用具にお金がかかり、柔道は畳をそろえるのが予算的に厳しく、武道場のようなものがあって常設されていないと準備・片付けに時間がかかります。相撲については中学生期には男女共修は難しい面が(46歳, 男性)
- 安全に実施できる環境整備をきちんとしてすることが第一。(34歳, 男性)
- ハード面の充実・整備が必要。(40歳, 男性)
- なぜ急に男女必修なのかわからない。特に女性教員で指導できる方は限られている。ダンスに関しても同じですが、大学ですら必修でない状況なのに無理が多い。特に武道はケガも考えられる。準備期間が短すぎる。(52歳, 男性)
- とても良い事だと思います。(47歳, 男性)
- とてもよいことだとは思いますが、そのための用具、設備を整えることがまずあって必修になるのは大賛成。現状を考えると見切り発車で適切な授業も増えると思う。日本の伝統や文化を学べるのだからしっかりとやれる環境を整えてほしい。(36歳, 男性)
- たたみのしき方からそのために必要な用具一式をゼロからそろえる学校にはセットのような形で支給してもらえるとありがたい。安全にたたみをしくことがなかなかうまくいかず経験ある教諭がいても苦心した。(28歳, 男性)
- それはいいんですが、生徒にとっては柔道は「痛い」ものなので、好きになる子が多くなるとは思えません。女子も全員必修なのは厳しいものがあります。今まで通りダンスとの選択がベストだと思います。(44歳, 男性)
- ソフト面、ハード面とも整備が不十分。かつ整備するにも予算がない。今年、武道ということで柔道を実施したが体育館ステージに物置にあった古い畳を無理やり固定して取り組みました。急に必修と言っても無理です。(40歳, 男性)
- これまでも、授業で全学年生徒に柔道を毎年指導してきました。しかし、柔道以外の指導には不安を感じています。(46歳, 男性)
- エホバ対策が必要になる。(56歳, 男性)
- うちの中学は武道の指定(H2,3)を受けてから柔剣道ともに行っているので必修による変化はほとんどありません。(39歳, 男性)
- いろいろな諸問題があるので、解消していかなければならない。(41歳, 男性)
- ・武具の予算的な準備 ・教諭の研修(41歳, 男性)

- アンケートにもあったが場の確保，予算不十分，指導者がいないなど，問題が多すぎる。 (37 歳，女性)
- 23 年度実施に向け，全ての教員が指導できる指導書や計画，生徒が使用する学習カードなどが整備されると現場としてもやりやすくなると思う。 (37 歳，男性)
- 「礼儀，作法を身につける，学ぶ」という観点において武道の必修化は，あくまで 1 つの手立てであらう，学校生活や家庭での教育という基盤が確立されて初めて成し得るものとする。 (33 歳，男性)

3 まとめ

全国の公立中学校 1,000 校を対象としたアンケート調査を行ったところ、45.5%にあたる 455 校から回答を得た。分析の結果、以下のことが明らかになった。

- 1) 84.8%が体育の授業で武道種目を実施している。
- 2) 実施種目としては柔道が多い(67.3%)
- 3) 武道の実施にあたってはほとんどが学校の施設を利用しており、教室で行っている学校もみられた。
- 4) 部活動としては剣道部を有する学校が最も多かった。
- 5) 武道を実施している学校の半数ではハード面は整備されているが、限られた予算の中で実施している。
- 6) 地域との連携はほとんど図られていない。
- 7) 武道を必修化することによって日本の伝統文化の理解や礼節に関する学習効果が期待される。
- 8) 必修化に向けてソフト・ハードの両面にわたる整備が求められる。

- 9) その一方で、地域との連携についてはあまり検討されていない。

これらの結果から、現在の中学校では極めて限定的な条件のもとで武道が実施されており、必修化に向けての様々な条件整備が急務であることが浮き彫りになった。とりわけ、施設・用具の整備が求められるとともに予算的な措置も必要とされている。また、自由記述からは男女共修への課題や教員自身の指導力に対する不安も指摘されている。その一方で、地域の物的、人的資源を活用するという視点からの検討に乏しいのもまた事実である。

教育的な効果として日本の伝統文化への理解や礼儀作法の修得などが期待されており、中学校における武道の必修化は体育のみならず日本の教育において重要な意義を持つものであると考える。

文部科学省が行う「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校」の取り組みにみられるように、現場の声に耳を傾けつつ安全かつ効率的に武道必修化による教育効果を導き出すための方策を検討することが急務の課題である。



中学校における武道必修化に関するアンケート

【お願い】

このアンケートは、平成23年度より実施される新学習指導要領に基づき必修化される武道種目について、全国の公立中学校の対応状況等を明らかにするとともに、武道教育のための環境を整備していく上での基礎資料を得ることを目的としています。

ご回答いただいた内容はすべて数値化され、統計的に処理されます。よって個別の情報(学校名や回答いただいた方の個人情報)が公表されたり外部に漏れたりすることは一切ございません。また、アンケートの結果は学術研究の目的にのみ使用されます。他の目的のために使用することはございません。

ご多忙中恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解いただきご協力をくださいますようお願い申し上げます。

【記入方法】

設問には()内もしくは空欄に字句を記入していただくものと、該当する口に✓を入れていただくものがあります。例にならってご回答下さい。

(例)

| | | | | |
|------------------|------------------------------|------------------------------|-------------|--------------|
| 1. 貴校についてお尋ねします。 | | | | |
| 在校生数: | 1年生()名 | 2年生()名 | 3年生()名 | 教員数()名 |
| (平成21年度) | | | | |
| 所在地: | <input type="checkbox"/> 町村部 | <input type="checkbox"/> 市区部 | (人口:およそ 万人) | うち保健体育担当()名 |

このアンケート用紙は表紙を含めて全部で4ページあります。すべての質問にご回答ください。なお、回答に要する時間はおよそ10分～15分です。

ご記入いただいたアンケート用紙は、同封いたしました返信用封筒(切手不要)にて12月25日(金)までにご投函くださいますよう、ご協力をお願いいたします。その際、参考資料等がございましたら同封いただければ幸いです。

【お問い合わせ】

このアンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

鹿屋体育大学
北村尚浩 研究室
〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地
TEL&FAX 0994-46-4968(直通) E-mail kitamura@nifs-k.ac.jp

1. 貴校についてお尋ねします。

在校生数 (平成 21 年度) 1 年生()名 2 年生()名 3 年生()名 教員数()名
 所在地: 町村部 市区部 (人口:おおよそ 万人) うち保健体育担当()名

2. 中学校における武道の必修化についてお尋ねします。

1) 「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校」の指定を受けていますか。

受けている 受けていない

2) 体育の授業で武道が必修化されることで生徒にどのような効果が期待できるとお考えですか。次にあげる各事項について、「1. 思う」から「5. 思わない」の該当する□に✓をつけてください。

| | 1. 思う | 2. まあ思う | 3. どちらでもない | 4. あまり思わない | 5. 思わない |
|---------------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. 運動の楽しさや喜びを味わうことができるようになる | <input type="checkbox"/> |
| 2. 運動を豊かに実践するための基礎的な知識や技能を身につけることができる | <input type="checkbox"/> |
| 3. 自分に合った運動の技能を身につけることができる | <input type="checkbox"/> |
| 4. 体力を高めることができる | <input type="checkbox"/> |
| 5. バランスのよい心身の発達が図れる | <input type="checkbox"/> |
| 6. 仲間との協同経験ができる | <input type="checkbox"/> |
| 7. ルールや仲間を称賛するなどマナーを守ろうとする態度が身につく | <input type="checkbox"/> |
| 8. 仲間と積極的に関わろうとする態度が身につく | <input type="checkbox"/> |
| 9. 自分の役割を果たそうとする態度が身につく | <input type="checkbox"/> |
| 10. 自分の健康や、自分や仲間の安全に配慮できるようになる | <input type="checkbox"/> |
| 11. 全力を尽くして積極的に運動に取り組む態度が身につく | <input type="checkbox"/> |
| 12. 自分に合った運動を見つけることができる | <input type="checkbox"/> |
| 13. 体力の高め方を理解させることができる | <input type="checkbox"/> |
| 14. 自分の意思を相手に伝える能力が身につく | <input type="checkbox"/> |
| 15. 相手を思いやる態度が身につく | <input type="checkbox"/> |
| 16. 日本の伝統文化を理解することができる | <input type="checkbox"/> |
| 17. 日本の伝統文化に触れることができる | <input type="checkbox"/> |
| 18. 勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる | <input type="checkbox"/> |
| 19. 武道の伝統的な考え方を理解することができる | <input type="checkbox"/> |
| 20. 相手を尊重することができるようになる | <input type="checkbox"/> |
| 21. 礼儀正しさが身につく | <input type="checkbox"/> |
| 22. 仲間との連帯感が高められる | <input type="checkbox"/> |

3) 武道の必修化に向けて、次にあげる各項目は貴校にとってどの程度必要だとお考えですか「1. 必要」から「5. 必要ない」の該当する□に✓をつけてください。

| | 1. 必要 | 2. どちらかという必要 | 3. どちらでもない | 4. どちらかという必要ない | 5. 必要ない |
|------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. 地域の指導者から協力を得る | <input type="checkbox"/> |
| 2. 地域の施設の利用 | <input type="checkbox"/> |

| | 1. 必要 | 2. どちらかという必要 | 3. どちらでもない | 4. どちらかという必要ない | 5. 必要ない |
|---|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 3. 武道種目の研修会・講習会等への教員の参加 | <input type="checkbox"/> |
| 4. 学校の武道場の整備 | <input type="checkbox"/> |
| 5. 武道を行うための場所の確保 | <input type="checkbox"/> |
| 6. 武道種目の指導計画を作成 | <input type="checkbox"/> |
| 7. 外部から指導者を招へいすること | <input type="checkbox"/> |
| 8. 地域の武道種目団体(柔道協会, 剣道協会, スポーツクラブ等)からの協力 | <input type="checkbox"/> |
| 9. 道着や防具など用具・教材を揃えること | <input type="checkbox"/> |
| 10. 他の学校との連携を図ること | <input type="checkbox"/> |
| 11. 用具・教材を購入するための予算 | <input type="checkbox"/> |
| 12. 武道を指導できる教員の補充 | <input type="checkbox"/> |
| 13. 武道の単元のための時間を確保すること | <input type="checkbox"/> |

3. 貴校での体育の授業における武道種目の現在の実施状況についてお尋ねします。

1) 武道の単元で実施している種目と学年に✓をつけてください。また、選択種目として実施している場合は、“選”を○で囲んでください。

| 種目 | 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | 男子 | 女子 | 男子 | 女子 | 男子 | 女子 |
| 柔道 | <input type="checkbox"/> ・選 |
| 剣道 | <input type="checkbox"/> ・選 |
| 相撲 | <input type="checkbox"/> ・選 |
| その他1 (種目:) | <input type="checkbox"/> ・選 |
| その他2 (種目:) | <input type="checkbox"/> ・選 |

2) 貴校にある武道種目の部活動すべてに✓をつけてください。

柔道 剣道 相撲 弓道 空手 なぎなた その他()

3) 体育の授業で武道種目を行っている施設は、次のうちどれですか。該当する□に✓をつけてください。

学校の武道場 学校の体育館 地域(公共)の武道場 地域(公共)の体育館
教室 その他()

4) 武道種目の実施にあたって、次にあげる各項目は貴校の現状にどの程度あてはまりますか。「1. あてはまる」から「5. あてはまらない」の該当する□に✓をつけてください。

| | 1. あてはまる | 2. ややあてはまる | 3. どちらでもない | 4. あまりあてはまらない | 5. あてはまらない |
|----------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. 地域の指導者から協力を得ている | <input type="checkbox"/> |
| 2. 地域の施設を利用できる | <input type="checkbox"/> |
| 3. 武道種目の研修会・講習会等に教員が参加している | <input type="checkbox"/> |
| 4. 学校の武道場が整備されている | <input type="checkbox"/> |
| 5. 武道を行うための場所の確保が困難である | <input type="checkbox"/> |
| 6. 武道種目の指導計画を作成している | <input type="checkbox"/> |
| 7. 外部から指導者を招へいしている | <input type="checkbox"/> |

裏面に続きます。

| | 1. あてはまる | 2. やや あてはまる | 3. どちらでも ない | 4. あまり あてはまらない | 5. あてはまらない |
|---|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 8. 地域の武道種目団体(柔道協会, 剣道協会, スポーツクラブ等)から協力を得ている | <input type="checkbox"/> |
| 9. 道着や防具など用具・教材が揃っている | <input type="checkbox"/> |
| 10. 他の学校との連携を図っている | <input type="checkbox"/> |
| 11. 用具・教材を購入するための予算が不十分である | <input type="checkbox"/> |
| 12. 武道を指導できる教員がいない | <input type="checkbox"/> |
| 13. 武道の単元のための時間が不十分である | <input type="checkbox"/> |
| 14. 武道を選択する生徒が少ない | <input type="checkbox"/> |

4. 最後に、あなたご自身についてご回答ください。

1) 性別: 男性 ・ 女性 2) 年齢()歳 3) 職名:() 4) 担当授業科目()

5) 体育の授業での武道種目をご担当されていますか。 担当している 担当していない

6) 武道種目の段位をお持ちですか、お持ちの場合は、該当するすべての種目の□に✓をつけ、()に段位をご記入ください。

柔道 ()段 剣道 ()段 相撲 ()段 空手 ()段
 合気道 ()段 なぎなた ()段 その他 ()段 段位は持っていない

7) あなたはスポーツを行っている時、次のような場面で喜びを感じますか。次にあげる各設問について「1. あてはまる」から「5. あてはまらない」の該当する□に✓をつけてください。

| | 1. あてはまる | 2. やや あてはまる | 3. どちらでも ない | 4. あまり あてはまらない | 5. あてはまらない |
|-----------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. 頑張って挑戦しているとき | <input type="checkbox"/> |
| 2. 本当に上達したとき | <input type="checkbox"/> |
| 3. それまでできなかったことができるようになったとき | <input type="checkbox"/> |
| 4. ベストを発揮できたとき | <input type="checkbox"/> |
| 5. 困難を克服したとき | <input type="checkbox"/> |
| 6. 自分で定めた目標を達成したとき | <input type="checkbox"/> |
| 7. 他の人にほできないことが、自分にできたとき | <input type="checkbox"/> |
| 8. 他の人よりも上手にできるとき | <input type="checkbox"/> |
| 9. 他の人よりも上手なとき | <input type="checkbox"/> |
| 10. 相手を負かしたとき | <input type="checkbox"/> |
| 11. 自分がいちばんうまくできるとき | <input type="checkbox"/> |
| 12. 他の人に自分がいちばんだと示したとき | <input type="checkbox"/> |

武道の必修化について、ご意見がございましたら自由にご記入ください。

[]

以上で質問を終わります。今一度、記入漏れがないかご確認ください。
お忙しいところご協力ありがとうございました。

中学校における武道必修化に関するアンケート調査
調査報告書

平成 22 年 3 月 31 日発行

編集・研究代表者 北 村 尚 浩
発 行 者 鹿屋体育大学生涯スポーツ実践センター
〒891-2393
鹿児島県鹿屋市白水町 1 番地
TEL & FAX 0994-46-4968